

# 地域公共交通活性化(関東ブロック)研修の開催

現在、地域公共交通を巡る環境が危機的な状況にある中で、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」(平成19年施行)を踏まえながら、地域公共交通の維持・活性化・再生に向けて、関係者が一体となって取組を進めているところです。関東運輸局では、「地域公共交通マイスター制度」を創設し、地域公共交通マイスターとして任命された皆様の経験、知識、熱意を広めていくことで、より多くの地域が地域公共交通の諸課題について積極的に取り組む気運を高める役割を担っていただいております。

今般、地域公共交通の維持、利便性の向上及び活性化の業務に従事する地方公共団体の職員及び関東運輸局に勤務する職員を対象として、地域密着型の交通政策行政を積極的に展開していく上で必要となる知識の習得することを目的として、「地域公共交通活性化(関東ブロック)研修」を開催しました。本研修では、講師以外に地域公共交通マイスターをアドバイザーとしてお招きし、参加された市町村職員の方々に対し経験、知識、熱意を広めるための場として活用していただきました。

日時：平成23年8月2日(火)～3日(水) 場所：国土交通大学校柏研修センター(千葉県柏市)

参加者：関東管内の市区町村及び運輸支局職員を合わせ総勢32名参加

## 【プログラム】

(1日目)

14:00～ 講義Ⅰ

「故郷を守る・・・公共交通を活かした計画に関わるやりがい」

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授 森栗 茂一

15:10～ 講義Ⅱ

「地位公共交通活性化に向けての取組」

イーグルバス(株) 谷島 賢

16:00～ 班別討議

「地域公共交通の活性化・再生に取り組む運輸支局・自治体間の問題意識、情報、ノウハウの共有」

(2日目)

9:00～ 講義Ⅲ

「地域公共交通に関わる支援制度(生活交通サバイバル戦略等)」

関東運輸局企画観光部交通企画課長 荒木 智彦

10:00～ マイスタープレゼンテーション

「取組事例紹介」

日立市役所 高橋氏・南房総市役所 鳶田氏・三郷市役所 大野氏・相模原市役所 藤井氏・秦野市役所 保坂氏

11:00～ 班別討議

「私の交通を含んだ総合まちづくり」

## 講義1 「故郷を守る・・・公共交通を活かした計画に関わるやりがい」



～講義の様子～

大阪大学森栗茂一教授より、「故郷を守る・・・公共交通を活かした計画に関わるやりがい」と題し講義をしていただきました。住民協働として行った事例として、神戸市のくるくるバスを例に挙げ、住民協働の苦労や大切さについて、お話ししていただきました。くるくるバスは、市民会議を行ったことにより市民合意ができたこと、交通事業者と行政だけでなく市民、学識経験者、企業、NPOによる多面的協働、交通システムについて地域住民、NPOと病院や商業等の集客施設とともに作り上げていったこと、くるくるバスにより自家用車に頼らぬ暮らしとなったこと等があげられるとお話いただきました。また、住民協働がなかなかうまくいかない点は、その地域にあったビジョンの無視、可能性の無視、意見の軽視、可能性の軽視にあり、後ろ向きの議論をしない、自分の町の事実を見直す、語る人の身になって考える、立場で議論するのを避ける等を行うことが必要であるとお話をしていただきました。

## 講義2 「地域公共交通活性化に向けての取り組み」

イーグルバス株式会社谷島氏より、「地域公共交通活性化にむけての取り組み」と題し講義をしていただきました。講義の内容については、事業の見える化についてのお話をいただきました。

路線バスの事業改善が難しい点については、事業がみえないからであるとの観点からハード面、ソフト面、プロセス面について行った取り組みをお話いただき、実際に使用している各システム、データ取得に利用している装置についてのご説明や、アンケートやデータの使用方法などをご説明いただきました。

また、事業の見える化により成功した事例として、日高路線バスとときがわ町の新交通体系について紹介いただきました。その中で、これからの交通維持モデルについては、住民、バス会社、行政がそれぞれ役割を分担して、路線バス維持努力を行うことが重要であるとお話いただきました。



～講義の様子～

## 班別討議 「地域公共交通の活性化・再生に取り組む運輸支局・自治体間の問題意識、情報、ノウハウの共有」



〈討議の様子〉

第一日目の班別討議は、「地域公共交通の活性化・再生に取り組む運輸支局・自治体間の問題意識、情報、ノウハウの共有」と題し、日頃の悩みや疑問、業務を行ううえでの問題点等の解決について討議を行いました。討議の方法は、5～6名で一班をつくり、その中にマイスター1名をアドバイザーとして加え、問題の解決に向け討議を行い、課題、解決策、未解決案件をそれぞれ紙に書き出し、最後に討議内容の全体発表を行いました。各班とも緊張のせいか、なかなか討議に移れませんでした。各班にアドバイザーを入れたため、次第に白熱した議論を行うに至りました。その後、討議内容の発表に移りましたが、発表をするマイスターには各班で名付けた「○○の匠」というカードを首からぶらさげる等、趣向を凝らしたものとなりました。討議内容の発表の場では、「目標設定をして決断はきっぱりと。」「細かい点だけにとらわれず全体的な俯瞰を。」「たまには成功事例を見てモチベーションを維持する。」「住民、交通事業者、市民で明確な役割分担を。」「政治的圧力は見極めが重要。」等、市町村での業務を反映した解決策が発表されました。



鳶田マイスター  
【熱い心(ハート)の匠】



保坂マイスター  
【速解決の匠】



藤井マイスター  
【交通の知恵袋】



高橋マイスター  
【母の心マイスター】



大野マイスター  
【相互扶助精神の匠】

### 講義3 「地域公共交通に関わる支援制度(生活交通サバイバル戦略等)」

研修2日目は、交通企画課荒木課長より、「地域公共交通に関わる支援制度(生活サバイバル戦略等)」と題し、地域公共交通を取り巻く現況と課題についてご説明いたしました。地域公共交通の現状は、人口の減少やマイカー依存により公共交通の利用が減少している一方、関東管内における市民意識においては、公共交通の維持を必要としているとのことでした。利用者減少→事業者の厳しい経営状況→サービス低下という負のスパイラルから脱却するための手助けとして、これまで運輸局として行ってきた、地域公共交通の活性化・再生に向けた取り組み及び現在の支援制度である地域公共交通確保維持改善事業についてお話いたしました。

また、本研修にも参加していただきました、地域公共交通マイスターに関する制度についてもお話いたしました。



～講義の様子～

### プレゼンテーション 「地域公共交通マイスターの取組事例紹介」

2日目の班別討議に移る前に、研修に参加していただきました地域公共交通マイスター5名の方に、それぞれの取り組みについて、事例紹介をしていただきました。取組事例紹介では、マイスターより次のお話をしていただきました。

- ・「交通空白地域の解消には住民自ら責任と費用の分担について議論することが大切。地域の全住民から会費を徴収することにより、乗合タクシーを意識してもらい、意見を言いやすい環境にする方法もある。」(日立市高橋氏)
- ・「自治体職員が汗をかかなければ住民や交通事業者たちから信頼を得ることはできない。イメージやアイデアを分かり易く説明し、失敗してもいいから根気強く何度も挑戦してもらいたい。」(南房総市高橋氏)
- ・「行政・バス事業者・市民で身の丈にあった計画を策定し、費用対効果や市民の交通行動を考えたバスネットワークを構築すべき。究極的にバスの運営は市民とバス事業者で決めることが望ましい。」(三郷市大野氏)
- ・「運行継続条件・導入基準等を予め制定し、運行廃止も含めて市民や交通事業者などに理解を得てもらう。運行の検討については地域住民自ら取組み、組織編成して発案するシステムを採用している。」(相模原市藤井氏)
- ・「持続可能な公共交通を構築するためには、行政・交通事業者・市民の他、地元商店街や周辺自治体等との調整も必要。多様な意見を上手く運行計画に反映し、公共交通を便利にすれば自動車からの転換も期待できる。」(秦野市保坂氏)



【マイスター挨拶】



【高橋氏】



【高橋氏】



【大野氏】



【藤井氏】



【保坂氏】

### 講義1-2 「故郷を守る・・・公共交通を活かした計画に関わるやりがい」

研修1日目の講義の追加として、大阪大学森栗 茂一教授より、「故郷を守る・・・公共交通を活かした計画に関わるやりがい」と題し講義をしていただきました。

今回の講義では、福岡県筑後市におけるしもつま福祉バスについて、お話いただきました。しもつま福祉バスは、ボランティア無償輸送を行っており、予算135万円という状況の中で行っているとのことでした。地域によっていろいろなやり方があり、予算をとるか事故等のリスクをとるか、行政判断が分かれるところであるとお話をいただきました。



～講義の様子～

## 班別討議 「私の交通を含んだ総合まちづくり」

第2日目の班別討議は、「私の交通を含んだ総合まちづくり」と題し、班別討議を行いました。今回は、研修員それぞれが自分が目指す交通体系のまちづくりを掲げ、それに対する数値目標→事業内容・創意工夫→関係者との関わり方→問題点・課題→解決策→評価基準までを各自で考える、自己啓発的要素の高いものとなりました。前述の数値目標から評価基準までを考えるには、その経験・知識が乏しい研修員には困難であるため、マイスターとの相談ブースを設置し、疑問等の早期解決を図りました。

各自、総合まちづくりを策定後、発表会を行いました。それぞれ、課題・問題点が違い、いろいろな「私の交通を含んだ総合まちづくり」が発表されました中、一人1票の投票を行い最も得票数の多い研修員を「あすの交通マイスター大賞」として表彰を行いました。



～討議の様子～



～相談ブースの様子～



～発表の様子～



～大賞の発表～



～表彰状授与～

### 研修の講評

研修終了後、今回参加していただきました地域公共交通マイスターより、「夢のある言葉で表現すること。」「数値目標は説得力がある。」「取組成功後のまちのイメージを持つ。」「修正可能性を常に持つこと。」「成功事例が上手くいくかどうか自市を良く観察すること。」「等のお言葉をいただきました。

また、本研修にコーディネーター役をしていただきました森栗教授より、「人生80年のうち50年は自家用車を自分で運転し、残り30年は公共交通に頼らざるを得ない。公共交通は欲しいと思った人が自分で負担し行動するべきで、それこそが『協働』であり、行政は彼らを支援する役割を果たさなければならない。」との講評をいただきました。

### 参加者の声

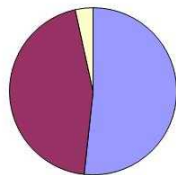
今回参加された研修員に対し、アンケートを実施しましたところ、研修の満足度については、全員が良かったとの回答をいただきました。また、班別討議の満足度については9割以上の方が良かったとの回答をいただき、良かったと回答いただけなかった理由については、もっと話を聞きたかったが時間が足りなかったという意見でした。その他、今回の研修について、次の感想・意見をいただきました。交通企画課としては、今回の研修で寄せられた意見を踏まえ、より良い研修を行うよう努力するとともに、地域公共交通に携わる方の知識を習得する場として、引き続き研修を行っていく所存です。

Q2 研修の満足度



非常に良かった  
良かった  
どちらともいえない  
あまり参考にならなかった  
参考にならなかった

Q6 班別討議の満足度



非常に良かった  
良かった  
どちらともいえない  
あまり良くなかった  
良くなかった

#### 【参加者からの感想・意見】

- ・助言者としてマイスターの方々から有意義な意見が聞けて参考になった。
- ・集中力がきれるので、もう少し休憩が欲しかった。
- ・もう少しディスカッションの時間を増やしてもらいたい。
- ・現状の異なる自治体の方とお話できて新しい発見があり良かったが、その後似た状況の自治体の方と話ができるとなお良かったのでは。
- ・交通まちづくり計画の技術論や着眼点などについて、事前のレクチャーをして欲しかった。